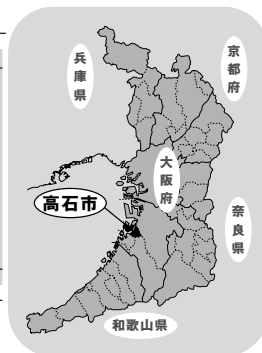


# わたしのまちのPR

ピーアール

## 高石市編



高石市は、大阪府の南部に位置し、北と東は堺市、南は和泉市・泉大津市、西は大阪湾に面している都市です。

古くから湾岸線の風景の美しさは、和歌の歌枕「音に聞く高師浜」に詠われ白砂青松の地として知られてきました。臨海部は重化学工業を中心とする工業地帯になっているほか、高石・羽衣・富木の3駅から大阪の中心部まで約20分、また関西国際空港にも約20kmと近く、温暖な気候と相まって内陸部は便利で住み良い住宅地として発展してきました。市域には山や丘陵などはないものの、市民の憩いと健康・スポーツ活動の場として、浜寺水路や浜寺公園などがあり多くの人々が訪れています。この高石市の魅力や特色について、企画財政課長の宮下さんにお話をお伺いしてきました。



本日はどうぞよろしくお祈いします。

まずは、高石市の特色について教えてくださいませんか。

よろしくお祈いします。

本市は全体的に平坦な地形で、東西6km、南北4km、市域が11.35km<sup>2</sup>とコンパクトな都市です。交通網は、府道堺阪南線、国道26号、府道和泉泉南線、大阪湾岸線などの主要道路とともに、南海本線とJR阪和線の鉄道が南北に走っています。

昭和37年頃から始まった臨海部の埋立工事による企業進出によって産業が大きく変化し始め、現在では、全国でも有数の石油コンビナート、重化学工業等を有しています。

なるほど、ベイエリアを中心に産業都市としてのイメージがありますね。

ところで、高石市の名所はございますか。

今申しあげました南海本線、JR阪和線には、本市を走る南海高師浜線(羽衣駅～高師浜駅：2区間)とJR羽衣線(鳳駅～東羽衣駅：1区間)という支線があります。

この南海高師浜線の伽羅橋駅で下車すると、目の前に約10m四方の伽羅橋公園が広がっています。この公園は「大阪みどりの百選」にも選ばれており、公園内にはセンダンの大樹をはじめ、ツツジやサツキなどが植えられており、初夏には美しい花を見せてくれます。

また、伽羅橋駅前の公園内には、今は戦火で焼失してしまった「大雄寺」跡の石碑が立っています。大雄寺は南北朝時代に建立された禅宗寺院であり、南朝の歴代天皇と関係がありました。また、泉州に



伽羅橋公園

大雄寺跡の石碑



おける南朝方の寺院としての役目を果たしていたといわれており、「伽羅橋」という地名は、門前に架かっていた橋の名にちなんでいるそうです。さらに「浜寺」の由来となったのも、大雄寺を「浜の寺」と呼んだことからといわれています。

次に<sup>せんしょうじ</sup>専称寺を紹介します。同寺は、昔は綾井城という城であり、南北朝時代、綾井城は和泉北部における重要な戦略拠点でした。その後、織田信長の家臣となった泉南出身の豪族、沼間日向守が城主となり、文禄年間（1592～1595）に沼間日向守の城跡にちなんで建立したのが、専称寺だそうです。

本堂廻りが一段高くなっていて、ここに城がありました。また、寺の山門脇土塀の所に「沼間日向守綾井城趾」の碑が立てられており、寺の山門前の堀は、城の堀の名残のようです。同寺の周辺には、古い町並と由緒ある民家が残っており、江戸時代の村をしのばせる風景が広がっています。

専称寺



次に、南海本線「羽衣駅」から西へしばらく歩くと、松林が美しい浜寺公園に着きます。この公園では休日になると、家族連れのバーベキューがあちこちで見かけられ、桜やバラの季節には花見客で公園内が混み合うほどです。約100年前、この公園から本市の海岸沿いに日露戦争のロシア兵捕虜収容所があり、約2万8,000人のロシア兵が1年間、ここで生活をしていました。

浜寺公園は、明治初年に公立公園として開設され、後に海水浴場として大正から昭和30年まで大阪府民に親しまれました。

平成14年は日露戦争終結100年にあたり、日本・ロシア両国は浜寺公園内に日露友好記念碑を建立しました。

なるほど、情緒豊かな風景が想像できます。  
そういえば、高石市では、南海本線と高師浜線の連続立体交差化事業が進められていますね。

おっしゃるとおりで、本市を南北に縦断し主要な交通機関である南海本線は、平面鉄道のため、市街地が分断されており、交通量の増加と関西国際空港開港に伴う列車本数の増便による踏切部の交通渋滞や、東西間の道路整備や土地利用の一体化に支障を来しています。

そこで、南海本線と高師浜線を高架化し、併せて鉄道沿いに関連側道を整備する連続立体交差化事業を行うことになりました。本事業では13箇所の踏切を無くし、道路交通の円滑化を図るとともに、鉄道により分断されていた市街地の一体化を図ることにより、安全で快適なまちづくりの推進に多大な効果が期待されています。

安心・安全なまちづくりは市民の生活に直結する重要な取組ですね。  
次に、高石市の特産品について教えてくださいませんか。

本市には貝細工という特産品があります。貝細工加工は、江戸時代に堺で家具や塗り物づくりが盛んであったころから始まったといわれ、300年を超える歴史があるといわれています。本市には明治27年の日清戦争以後に地場産業として定着し、同市千代田地区一帯を中心に家内工業としてその伝統を継承しています。本市の貝細工は、薄貝といわれる貝摺り<sup>かいす</sup>りで、もともとは漆工芸の技法である螺鈿<sup>らでん</sup>など、木工用の工芸材料です。貝摺りの歴史は奈良時代にまで遡ることができるといわれていますが、本市にお

貝細工



ける貝摺りは、農家の副業として江戸末期に始められたのではないかとみられています。その後国内の工芸用を中心に、一部は海外の家具向け等にも輸出され、木材工芸用以外の分野にも需要が拡大してきました。第2次世界大戦前には10企業前後の産地を形成していた市内の貝細工業は、昭和40年頃が最盛期でした。

次に、まちのイベントについて教えてください。

本市を代表するイベントとしては、**商工フェスティバル**があります。

これは、毎年秋に、市と商工会議所の共催で行われており、市内商工業者による魅力ある商品、市内で生産されている工業製品・商品、本市の友好都市である和歌山県有田川町清水ほかによる地場産業の展示、即売会や市民によるガレージセールが行われ多くの人々にぎわいます。今年についても先日行われ、延べ5万人の人が訪れるなど大盛況でした。

次に、毎年10月の第二土曜日、日曜日に行われているだんじり祭りも盛り上がります。

以前は花車などで行われていましたが、最近はだんじりをもつ町が増え、現在、市内に15台のだんじりがあります。南海本線高石駅前周辺が主な見所となっています。

また本市の友好都市和歌山県有田川町に**高石市ふるさと村キャンプ場**を開設しています。

ふるさと村キャンプ場周辺では、川遊びやハイキングが楽しめるほか、スポーツスライド・全天候テニスコート・プールなどのスポーツ施設がある「ふれあいの丘・スポーツパーク」や、緑に囲まれた八角形のユニークな建物で天然温泉を楽しめる「しみず温泉健康館」など有田川町の施設も充実しています。

色々なイベントがありますね。

他に、何か特徴的な取組はございますか。

本市の工業適地において、企業立地等を促進することにより、雇用創出、産業振興及び地域経済の活性化を図り、市勢の発展に寄与するため**高石市企業立地等促進条例**を施行しました。



商工  
フェスティバル



だんじりまつり



高石市ふるさと村キャンプ場

具体的な内容につきましては、本市の工業専用地域・準工業地域において、製造業・電気・ガス・熱供給・水道業（新エネルギー利用等に係るもの）などの業者が、事業所等（工場、倉庫、事務所、試験研究施設及びこれら附帯施設）の新設又は拡張等を行うにあたり取得した家屋、償却資産が5億円以上

(中小企業者は5,000万円以上)の場合、固定資産に係る固定資産税・都市計画税を5年間、2分の1軽減するものです。

また、大阪府の産業集積促進税制に基づく「第二種産業集積促進地域」(地域内の工場等の新增設等に係る不動産取得税を軽減)の指定を受け、府施策とも連携して、企業立地等の促進に向けた取組を進めています。

なお、このたび、堺・高石臨海地域の更なる活性化を目指すため、企業立地促進法に基づく基本計画を作成し、国の同意を得ました。

今後は、計画を推進することにより、大都市圏に位置する強みを活かしながら、地域経済を幅広く支える産業拠点として、安全で環境にやさしい21世紀型の新しいコンビナート「都市型スーパーコンビナート」の形成を目指します。

次に、本市の市立図書館に市内在住の元競輪選手、山本清治氏からの寄付金をもとに購入した約400冊の書籍を貸し出す府内でも珍しい「闘病記コーナー」ができました。

これまで、寄付金は児童図書購入資金として活用してきましたが、山本氏より「病気の人たちの励みになる図書をそろえてほしい」との希望を受け同コーナーの設置が実現しました。コーナーには、がん患者や難病患者の闘病記、患者の家族による手記などの図書を中心にそろえています。

また、本市では、今年4～7月に不審者による声かけや連れ去り未遂などのトラブルが10件発生しており防犯体制の強化が課題になっていました。



闘病記コーナー



ICタグ

そんな中、広島市の通信事業者から、社会貢献活動として子どもの登下校の時間が確認できるシステム一式の提供の申し入れがあり、受け入れることになりました。

今年の10月から市内の全7小学校の児童に、校門を通ると受信機で感知する防犯用のICタグを配布しました。各小学校に、ランドセルに取り付けたタグを感知するアンテナや監視カメラ、管理用サーバーなどを配備し、登下校時に学校側が把握できるようになっています。

また、児童一人につき年額3,000円を負担すれば、保護者にもメールが届くサービスを受けることも可能です。

なお、このシステムの導入については、市町村単位では全国初となります。

これにより、通学の安全が一層図られると期待しています。

最後に今後のまちづくりについて教えていただけますか。

ご存知のとおり、7月31日、シャープ株式会社が、堺市の堺浜地区に、最先端の液晶パネル工場と太陽電池工場の併設の決定と、関連企業工場の誘致を発表しました。また、8月2日には関西国際空港の第2滑走路がオープンし、国内初の24時間空港になりました。このように、本市周辺は活気に包まれています。

今後はこうした成果を活かしながら、本市のキャッチフレーズである人間都市・高石「小さな輝きが広がる和みのまち」の確立のため、新たなまちの魅力を創出し、市民誰もが信頼しあい、誇りと愛着をもって住み続けることのできるまちづくりに取り組んでまいります。

和みを大切にしたまちづくりに一層躍進されることを期待しております。

本日は、お忙しい中、ありがとうございました。